



# 神宮寺便り

平成26年8月  
第12号

発行 普天満山 神宮寺  
宜野湾市普天間1-27-11  
098-892-3335

本格的な暑さがやって参りました。今年は境内にセミがたくさん鳴いていて、自然の息吹を多く感じています。

さて、今月は沖縄の一大行事である旧盆がやって参ります。今回はお盆のお話しです。

## お盆（盂蘭盆会）

良啓

沖縄では、現在でもお盆と言えは、旧暦で行っていますが、県外では新暦で行っているのが一般的です。全国的に見て、大別して3通りに分類出来る様です。

- ① 新暦7月15日
  - ② 新暦8月15日（月遅れ盆）
  - ③ 旧暦7月15日（旧盆）
- ①は主に東日本に多く、②は西日本、③は沖縄地方と言う分布です。

また、仏教行事と言うイメージが強いですが、意外にも古神道の先祖供養と中国の習慣、仏教の盂蘭盆思想が入り混じって、現在の形式となっています。

沖縄では、旧盆前の旧七夕に墓清掃と墓参りを済ませ、当日を迎える家庭が多いです。

期間中は、ウンケーシユシーのお供えから始まり、ウーシグーサン、ソーローハーシー等独特の飾りが用いられます。特に仏壇の傍にミンヌクと言う野菜を細かくしてメリケン粉と混ぜて施餓鬼する習慣が古くからあります。

先祖の霊を迎えるために踊るエイサーですが、元々僧侶が発案しました。浄土念仏を沖縄に定着させるために唐手の型や土着の要素を取り入れて、編み出されました。そのため、念仏廻り（ニンブチマイイ）と呼ばれています。勝連の平敷屋エイサーは、古い時代のまま残っているとされ、ゆったりとした動きと質素な衣装が特徴です。

この様に、旧盆には先人の智慧が詰まっています。大事に後世に伝えていきたいものです。

## 弘法大師の言葉

裕俊

こころから  
心暗きときは

すなわ あ とこころごとごと か  
即ち 遇ふ所 悉く禍なり

まなこあきら  
眼明かなるときは

すなわ みち ふ みなたから  
即ち 途に觸れて皆宝なり

性靈集巻八・招提寺達願文（定八・一三七）

「貪（とん）・瞋（じん）・痴（ち）」といった煩惱によって心暗きときは、見聞きするものはすべて災い、迷妄となり、心眼を開き仏の眼をもつて接するときは、そのものの真実の価値を知る事ができ、すべてが宝になる。」

落ち込んでいたり、怒っている時というのは、普段なら気にならないような事が気に障ったり、楽しい話を聞いても笑えなかつたりします。それは、自分のマイナスの感情に囚われてしまっていて、周りを見る余裕がもてなくなっているからです。

しかし、そういう時にぶっと励ましてくれる友人や、和ませてくれる家族のお陰で気が晴れた、という経験がございませんか？

そういう人たちの有難さ、大切さに気付いた時、あなたも誰かの宝になれるきっかけを得るのです。

### ＊8月の神宮寺＊

8月14日（木） 神宮寺学心会（盂蘭盆会）19時～21時 ￥500

### ＊9月の神宮寺＊

9月4日（木） 神宮寺学心会（ふてんまつり作務）19時～21時 ￥500

お問い合わせは 892-3335 神宮寺まで